

## ILSI Japan 活動報告&lt;81&gt;

【部会・分科会活動報告】 2020年3,4月度

食 品 安 全 研 究 会	食品微生物研究部会	<p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナのため分科会打ち合わせを延期</li> </ul> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会打ち合わせ (3-4月) は開催なし</li> <li>・NITE 連携は技術交流会延期後の進捗無し (日程再調整も未定)</li> </ul> <p>(3) チルド勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボツリヌス菌制御に関する活動、耐熱性試験法検証の素案作成中</li> <li>・上記素案作成に係る打ち合わせを延期</li> </ul> <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICMSF ビデオ翻訳：進捗なし (春日先生確認待ち)</li> <li>・WHO/FAO リスクアセスメントシリーズ 24 翻訳： FAO との契約締結を推進中。</li> <li>・ホームページ作成：進捗なし</li> </ul>
	食品リスク研究部会	<p>2020年度第1回目の部会を開催 (2020年3月19日 Web 会議)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規活動「"A Natural Mistake: Why natural, organic, and botanical products are not as safe as you think" (Dr. Jim MacGregor 著：元 FDA)」の情報発信 (翻訳本の出版、国内シンポジウムの開催) について部会承認が得られた。5月中旬を目処に翻訳を開始、その後、林真先生、森田健先生の指導の下、修正を行う。並行して出版関係 (E-book、POD)、費用他について検討することとした。</li> <li>・「食品リスク評価上の課題解決・高齢者が摂取する食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信」の報告書について次回部会までに1次案を作成し、協議することとした。</li> <li>・なお、国衛試安全情報部長・畝山智香子氏の講演については次回部会に延期となった。</li> <li>・次回部会は7/10 (金) に予定。</li> </ul>
	香料研究部会	特に進捗なし
A A T プ ロ ジ ェ ク ト	概要	国際WSとシンポの同時開催および2つの研究テーマ推進を3本柱とするWG活動を国立衛生研、AI-SHIPS、NITE等の多数のアカデミアや学会、およびアジアやEUのILSI支部と連携しながら進めている。
	2020 国際ワークショップ (ILSI Europe 協働)	<p>【概要】食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として国際WSを2020/10/22~23に横浜で限定公開 (AAT 関連メンバー等) にて、さらに公開国際シンポを10/23午後と同会場で開催する。</p> <p>【進捗】ILSIの当該活動内容・成果を広めるために国際WS終了後に公開にて国際シンポを開催することとし、ILSI Europe とのWeb会議やプログラム委員会にて当該シンポ開催の是非を検討し、了承された。さらにWS及びシンポの大会長を含めた座長・演者の確定やアジア支部の意向最終確認等、両集会のプログラム案をさらに具体化すると共に、学会・行政等の後援・招待案、ワークショップ Statement 案の検討を継続した。また、実務作業を担うワーキンググループ会議を開催し、今後の作業予定を確認するとともに、座長・演者への事前確認、後援・招待の事前確認並びに論文投稿先の選考や原稿作成方法等の検討を含めた実務作業を実施している。</p>

	腸管吸収 WG	<p>【概要】動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。昭和薬科大学 山崎研究室の動態予測（計算）モデルの適用性を検討する。</p> <p>【進捗】腸管吸収性の予測に関して、in vitro 試験データを in silico で予測できるか検証すべく、食品成分の in vitro 透過性試験データの文献調査を行った。その結果、計 82 の食品成分のデータを見出した。また、ヒト血中動態予測性の更なる把握を目的に文献調査を行った結果、新たに 11 物質のヒト血中動態データを見出した。</p>
	データベース WG	<p>【概要】毒性文献等を活用した反復投与毒性を予測する手法の活用。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p> <p>【進捗】データを収集する食品成分について、ケミカルスペースを基に導いた約 200 化合物から無機塩等を除いた約 140 種について毒性試験情報の収集を開始。インプットフォーマットの課題解決に向け産総研 竹下先生との Web 会議を実施し、病理所見の課題解決を実施した。優先化合物 50 種を選定し、HESS を用いた有用性検証に向け HESS フォーマットを用いて毒性試験情報を収載することを決定した。また、国立衛研 山田先生が主導する食品安全委員会テーマとの連携を決定し、今後の進め方について山崎先生と Web 会議を実施した。</p>
	定期会議	<p>3/5 にプロジェクト全体会議を開催（Web 会議併催） 参加者：会員 12 社 22 名、中江先生（アドバイザー）、事務局 2 名。</p>
バイオテクノロジー研究会		<p>2020 年度 第 2 回目会議を 4 月 17 日に開催（リモート会議）</p> <p><b>(1) ERA プロジェクト調査報告書</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 49 号を 4 月発刊。 「イルシー」No. 139 に掲載された寄稿「小口太一：我が国の学術目的での遺伝子組換え植物の第一種使用規定の承認審査の変遷：申請者の視点による評価」別刷りも同封し配布。</li> <li>・第 50 号の勉強会：10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。</li> </ul> <p><b>(2) ILSI ERA 勉強会</b>（隔離ほ場試験データトランスポートビリティについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当勉強会の WG の活動の報告がなされた。</li> <li>-開催候補日：2020 年 10 月 8 日</li> <li>-目的：遺伝子組換え作物の安全性、環境影響評価に関する科学的な知見を専門家、規制当局を含む関係者に情報提供し、さらなる科学的なリスク評価の発展に貢献</li> <li>-規模：100 人程</li> </ul> <p><b>(3) 会計報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算進捗を確認した。</li> </ul> <p><b>(4) その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ERA 報告書集約版：送付先確認を実施。第 50 号と共に同封し送付予定。</li> </ul>
栄養健康研究会	栄養研究部会	特に進捗なし
	GR プロジェクト	特に進捗なし
	茶類研究部会・茶情報分科会	特に進捗なし

健康な食事研究会	ワーキンググループ 1 (WG1) 科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築	特に進捗なし
	ワーキンググループ 2 (WG2) 外食・中食・給食の実態把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「イルシー」誌 143 号への論文投稿に向け投稿用原稿の一部（緒言、中食企業への訪問調査）が完成した。現在、アンケートデータを解析中。</li> <li>・ Nutrition Reviews 投稿原稿の修正・加筆対応。</li> </ul>
	ワーキンググループ 3 (WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「イルシー」誌 143 号への論文投稿に向け投稿用論文の一部（はじめに、方法、結果）が完成した。現在、論文の考察部分を作成中。</li> </ul>
	研究会全体	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2月20日に開催された第11回全体会議で以下が決まった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な食事研究会は、本年5月中旬締切の「イルシー」誌投稿をもって活動を終了とする。</li> <li>・食と健康に関連して既存あるいは新規の研究会で活動を継続するかについて引き続き検討する。</li> </ul> </li> <li>2. 第8回「栄養とエイジング」国際会議の発表内容をプロシーディングスとしてまとめ、Nutrition Reviews のサプリメント版に掲載すべく準備中である。</li> </ol>
CHP	Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養”プロジェクト	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ～元気で長生きのための運動・栄養プログラム～</p> <p>3月 墨田区委託事業「すみだテイクテン」「栄養講演会」報告書提出。</p>
	Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト	<p>◇ 栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP) 委託事業</p> <p>3月 インドネシア、カンボジア、ミャンマーの委託事業（職場の栄養改善）について NJPPP への事業報告書を提出。</p>
	CHP 全体	5月17日に予定されていた栄養食糧学会での ILSI/栄養食糧学会共催での「食の多様性と健康に関するシンポジウム」は中止となった（学会の開催が中止決定）。
国際協力委員会	<p>オンライン委員会開催：2020年4月16日（木）15:00～17:00</p> <p><b>【議題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事務局からのご報告（ILSI のコロナ対策、他部・委員会の開催についてご共有） <ul style="list-style-type: none"> <li>2020年度国際協力委員会予算（支援金）について</li> </ul> </li> <li>2. ILSI SEAR 製作 “Review of Nutrition Labelling, Nutrition &amp; Health Claims Regulations in Asia” 共有先について</li> <li>3. 食産センタークーデックス対策委員会オブザーブ参加の件</li> <li>4. 日添協主催の講演について</li> <li>5. その他（9月 BeSeTo、今後の活動など）</li> </ol>	
情報委員会	<p>栄養学レビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 28-3号 通巻108号（2020年5月発刊予定） 編集会議 11/22 4報採択 ⇒4報とも翻訳者確定（翻訳締切=1/31、監修締切=2/28） ⇒OUP 承認 ⇒4報とも監修原稿受領⇒4/6再校⇒4/17 OUP 承認取得 ⇒4/18入稿 ⇒5/12見本予定</li> <li>・ 28-4号 通巻109号（2020年8月発刊予定） 編集会議 2/17 4報採択 ⇒4報とも翻訳者確定（翻訳締切=4月末、監修締切=5月末） ⇒4/24 OUP 承認済 ⇒4報中3報翻訳原稿受領 3報監修依頼済み</li> </ul>	

	<p>・29-1号 通巻110号 (2020年11月発刊予定) 編集会議 5/11 (月) 16時～ Web 会議予定 (スケジュール: 翻訳締切=7月末、監修締切=8月末)</p> <p>・次回編集会議 5/11 (月) 16時～ Web 会議 &lt;29-1号 通巻110号掲載論文選定 対象誌: NR78(2)-78(4)&gt;</p>
編集部会	<p>・「イルシー」141号発行</p> <p>・「イルシー」142号編集</p>

## 【講演会・シンポジウムご案内】

講演会名	案内	担当研究部会

## 【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>第3回理事会が令和2年4月21日(火)に開催された。</p> <p>&lt;承認事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) AATプロジェクトの国際ワークショップとシンポジウム開催及び食品安全委員会の連携プロジェクトについて 事務局より資料に基づき説明し、承認された。</li> <li>2) バイオテクノロジー研究会 ERA ワークショップ「GMダイズの隔離ほ場試験のデータトランスポートビリティに関する知見」について 事務局より資料に基づき説明し、異議なくその開催案が承認された。</li> <li>3) 新研究講座の進め方 事務局より「新研究講座」の概要を説明。ILSI Japanの中に「(仮称) AI 栄養研究会」として新たな研究会を設置し、この研究会と「国立健康・栄養研究所による AI 栄養学」、「東北大学未来科学技術共同センター (NICHe) による AI ディアトロフィ」の2つの研究機関と共同研究を実施する。参加企業は ILSI Japan AI 研究会に参加費を支払い、これらの研究機関と共同研究に参画する。また個別に研究機関と契約を結び企業固有の研究も可能にする。今後の進め方につき異議なく承認された。</li> </ol> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 食品リスク研究部会の新規活動 (翻訳、出版)</li> <li>2) 今後の理事会日程 (次回7月14日) 今後の新型コロナウイルス感染による外出自粛のため理事会を Web にて開催する可能性がある」と説明した。</li> </ol>
事務局	3月3日から5月6日まで在宅勤務とした。